乍恐書付を以御訴詔申上候

　　　　落堀筋村々内百性ニ而御座候

一　去六月廿日之洪水ニ付落堀橋樋悉潰

　　申候、右橋樋是迄毎年御願申上度々御普

請成被下其外百性自分ニ茂繕普請仕

　　大分之費年々ニ致候得共難持此度透と

　　崩れ申候、此已後大分之御入用を以　御公儀様ゟ

　　御普請可被仰付候得共御普請相応ニ高掛り銀も

　　可有之哉と奉察、乍恐以書付申上候御事

一　大和川近年大分堀上り依之悪水右橋樋

　　切所ニ而大和川へ能落申儀御上覧被下候通に

　　御座候間右場所ニ而切抜被為仰付候ハヽ

　　御公儀様御入用も無御座百性費等も無之悪

　　水茂能落、水場難義之村も無数可有

　　御座と乍恐奉存候、尤洪水之節ハ少々返り水

　　差込申儀暫時之間可有之候得共水吐早ク

　　御座候ニ付還而水難遁可申様ニ奉存候御事

一　落堀川上拾ヶ村ゟ此度東除川筋大堀村

　　川邊村領内ニ而川替落堀共大川へ切抜御願

　　被申上候由承及申候、此義西堤丈夫ニ御築

　　被成可被下候ハヽ、川上願之通被為　仰付候而も川

　　下村々差構申義少も無御座候、乍恐右両様之

　　内御吟味之上被為　仰付被下候ハヽ、難有可

　　奉存候、以上

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　川下村々

　　享保二年酉七月

　　　堤御奉行様